

わが村は美しく

○第十二回コンクール大賞

にじいろファーム(七飯町)

美国・美しい海づくり協議会／

余別・海HUGくみたい(積丹町)

○大賞審査委員特別賞

特定非営利活動法人

山のない北村の輝き(岩見沢市)

ピロトゥーリズム推進協議会(広尾町)



第11回 コンクール大賞 団体決定

特別編



第11回コンクール大賞、大賞審査委員特別賞受賞者の皆さま

「わが村は美しくー北海道」運動は、農山漁村とその地域を支える農林水産業をもっと豊かにするため、二〇〇一年にスタートしました。第十二回は、全道五十六市町村から六十三団体の応募があり、審査の結果、優秀賞十二団体が表彰されています。その優秀賞から一年間の選考審査を経て、先導的、モデル性の高い活動を行う二団体に大賞、また今後も継続した活動が期待される二団体に大賞審査委員特別賞が授与されました。

春を告げる白カブを中心に 農業の魅力を発信

にじいろファーム 1

七飯町の農家で研修を積み、研修先の農家から農地や農機具などを譲り受ける第三者継承によって二〇二〇年に新規就農しました。同時に直売所も引き継ぐ。七飯町の特産の白カブや野菜をはじめ、地元の約三十軒の会員農家と協力して山菜、果物など約五〇種類を販売。わずか四年の取り組みでありながら、修学旅行生などの農業体験受け入れ、就労継続支援B型事業所との農福連携などにも取り組んでいます。

にじいろファームは、新規就農をめぐる人々にとつてのロールモデルとなり、地域活性化を牽引する存在として期待が寄せられています。

ウニの生産量減少に歯止めを！ 海の森づくりで循環型再生産

美国・美しい海づくり協議会／ 余別・海HUGくみたい 2

これまで廃棄物となっていたウニ殻を施肥材として利用しコンブを育てることなどでウニの生産量と品質が向上するなど、ウニと藻場の循環型再生産システムを実践していることが高く評価されました。積丹町、漁協、民間企業と連携し、ブルーカーボン創出プロジェクト協議会を立ち上げ、二〇二四年三月に「Jブルークレジット」認証を受けました。

漁業と海洋環境保全の重要性を広く発信し、若い漁業者の就業にもつながるなど、地域経済への波及効果も徐々に大きくなっています。

地域の基幹産業である水産業の持続可能な発展だけでなく、環境保全との両立により地域全体の活性化に貢献していることに注目が集まっています。



磯焼け現象によるウニの生産量減少を食い止めるため、海の森づくりを推進。



2020年、新規就農を記念して西山さん夫婦と三人の娘さんと白カブのハウスで記念撮影。



酪農、漁業、林業など地域の若者が連携し、広尾町の魅力を発信。



地域の歴史や風土を伝え、河川や環境保全活動を地域ぐるみで実施している。

今後の活動に期待される

二団体が大賞審査委員特別賞に！

特定非営利活動法人

山のない北村の輝き

3

地域住民が主体となり河川の景観保全や植樹活動をはじめ、農泊、農作業体験などで地域を活性化。地域の歴史や文化を残すことで大人はもちろん子どもたちにも好影響を及ぼし、インバウンド顧客の受け入れにまで活動を拡大しています。今後も北村地域の風土を保全しながら、若者や外部の人も参加できる開かれたものへと発展し、持続可能な活動となることを期待される受賞です。

ピロロリズム推進協議会

4

地元高校生と協力した地域特産品の開発など、一次産業従事者、高校生、住民を巻き込んで、楽しみながら「地域づくり」に貢献しています。

地元産の昆布を使った「星屑昆布」や「囃む囃む昆布」など商品化への発想がユニーク。また、地域観光ガイドブックの発行やSNSで情報を効果的に発信。

広尾町の酪農と漁業と林業の二次産業をベースに体験型観光から特産品開発までの観光地域づくりの好事例として高く評価されました。

二十を超えて、これまでの応募は、全道百七十九市町村のうち百七十三市町村にも及び、北海道全域にわたる活動として強く根付いています。

今回ご紹介した団体の活動内容の詳細は、北海道開発局「わが村は美しく北海道」運動QRコードをご覧ください。

1

「わが村は美しく北海道」運動は、北海道の農林水産業をより豊かにするために、2001年にスタートしました。2年に1度コンクール形式で優秀な活動を表彰しています。コンクールは1年目に優秀賞、奨励賞を表彰し、2年目に優秀賞から大賞を決定。地域の資源を掘り起こし、地域の活力とすると同時に活動を広くアピールし、豊かな北海道を未来へと受け継いでいくことを目的としています。

お問い合わせ／国土交通省 北海道開発局
農業水産部農業振興課

☎ 011・709・2311 (内線5685)

